

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月26日

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|---------------------------|----------------|------------|
| 事業所番号 | 0874400336 | | |
| 法人名 | 株式会社 大起エンゼルヘルプ | | |
| 事業所名 | グループホーム なごみ藤代 | ユニット名 | A棟 |
| 所在地 | 〒300-1511 茨城県取手市櫛木1376 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年8月13日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成27年2月23日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|-----------------|---|
| 基本情報 リンク先URL | http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0874400336-00&PrefCd=08&VersionCd=022 |
|-----------------|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|--------------------------------------|---------------|------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人茨城県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年9月19日 | 評価機関 決 済 日 | 平成27年2月12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

| |
|--|
| <p>利用者の方がどんな状態になっても、人としての尊厳を持ち、その人らしく生活していく事ができるように以下の事を常に考え支援にあたっている。</p> <ul style="list-style-type: none">・可能な限り「自分のことが自分で出来る」ように・「利用者同士が互いに協力し合って生活を営むことができる」ように・「地域、社会と常に繋がりをもって、その一員として生活を営むことができる」ように |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

| |
|--|
| <p>事業所は幹線道路から5分程脇に入った場所に立地しており、周りは田園地帯で住宅も点在し、脇には同一法人の介護老人保健施設や、道路を挟んで向かい側には中学校があり、のどかな環境の中にも中学校の休み時間には校庭で遊ぶ生徒の声や、部活動のブラスバンドの楽器の音色などが聴こえてきて、活気ある環境となっている。</p> <p>管理者は利用者一人ひとりの思いを大切に、思いをすぐ行動に移す自由な生活を重点に職員に指導をしている。</p> <p>職員は利用者の希望を聴きながら毎日午前中にその日の献立を考え、利用者と職員と一緒に買い物に行き調理をすることとし、事前に一日の予定を立てない支援を取り入れているため、時間で拘束しない事業所の方針を支援に取り入れている。</p> <p>利用者一人ひとりの残存能力を引き出すために、洗濯や掃除、買い物、調理、草取り、花壇の手入れなど、家事一般をできる範囲で利用者自身にやってもらうことで、入居時よりも能力の改善が図られている。</p> |
|--|

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------|------|--|--|--|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月スタッフ会議で定期的に理念を確認している。2ヵ月に一度の運営推進会議で出席者とともに理念を共有している。手を出しすぎない支援を行いながら、社会との繋がりを持ち、利用者同士が助け合いながら生活を営めるよう支援にあたっている。 | 管理者と職員は重要事項説明書の中の運営方針を理念として考え、事務室に掲示するとともに、月1回の職員会議で確認しながら共有し、実践に結び付けている。 職員は理念にそって支援しているが、文面の文字数が多く長い文章のため、口頭で全部言えるまでには至っていない。 | 管理者と職員で話し合い、いつでも口頭で言える地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成することを期待する。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日に1～2回以上スーパーや地元の商店の買い物や祭りやコンサートなどに出かけている。また、運営推進会議を通して地域の方と繋がりを持っており、地域の方と避難訓練を行ったり、市役所の花壇の管理をしている。 | 利用者は職員と一緒に、市主催の文化祭や音楽会を見に行ったり、スーパーや地元商店街に買い物に行くなど、日常的に出かけて地域の人々と交流をしている。 管理者は地元の中学生の職場体験を受け入れているほか、シルバーリハビリ体操や踊りなどのボランティアを定期的に受け入れたり、利用者と職員で作ったさつまいもの収穫時には、近隣の幼稚園児を招待しても堀りを一緒にするなど、利用者が地域の人々と交流ができるように支援をしている。 地域活動の一環として、利用者は職員と一緒に藤代庁舎の花壇の管理をしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 日ごろの見学、中学生の職場体験、社会協議議会主催の男性講座見学説明や認知症サポーター養成講座の開催なども行ってきている。また、運営推進会議を通じ、昨年に加え馴染み店舗の店長さんや幼稚園の先生方などにも認知症の人の理解や支援の方法をご理解頂けていると感じている。 | | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご家族や包括支援センターの方、地区長、民生委員の方々や昨年に加え、地域の方、馴染み店舗の店長さんや幼稚園の先生の意見を取り入れサービス向上に活かす努力をしている。 | 運営推進会議は利用者や家族等の代表、地域包括支援センター職員、区長、民生委員、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 多くの家族等の参加を得るため、年3回土曜日に開催する家族懇談会時に運営推進会議を開催しているが、開催日が土曜日の場合は地域包括支援センター職員の参加が得られていない。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの向上に活かしているが、毎回多くの意見を得るまでには至っていない。 | 運営推進会議は毎回市担当者または地域包括支援センター職員の出席が望まれる。 毎回の会議に市担当者や地域包括支援センター職員が出席できるように、市担当者と相談をすることを期待する。 多くの意見や助言を得る活発な会議となるよう、事前に話し合う議題などを委員に伝えることを期待する。 | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議や地域密着型サービス連絡会でお互いの情報交換を行っている。また、行政へ地域との交流を深める為のイベント開催において、気軽に問い合わせをしている。 | 管理者は地域密着型サービス連絡会への出席時に、市担当者に事業所の空き情報や運営状況などを報告している。 市担当者からは介護保険制度の改正や研修、お知らせなどが随時郵送やファックスで届いているほか、管理者からは利用者が地域住民と交流を深めるためのイベント情報などを問い合わせしており、日頃から協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についてのマニュアルを作成し、事業所内研修も通じて、職員へ周知している。 | 身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記するとともに、全職員は身体拘束の内容とその弊害を理解し、月1回の職員会議で身体拘束の状態になっていないか確認をするほか、誘発する原因を取り除くように努めている。 管理者は職員に内部研修や外部研修を定期的に受講させ、身体拘束の内容とその弊害を再度理解させるなどして、身体拘束をしないケアに努めている。 玄関は日中は施錠せず利用者が自由に入出りができる状態になっているが、夜間は防犯を考慮して施錠をしている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 事業所内研修だけではなく、会社全体の研修も通じ、「虐待とは何か」を話し合い、防止に努め、また、同時に高齢者虐待防止法についての研修も行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 牛久の社会福祉協議会の権利擁護を利用したことがある。必要があれば、対応を取れる体制はとれている。また、各自、権利擁護の外部研修に参加して頂けるよう勧めている。 | | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に事前に契約書をお渡しし、目を通して頂くことで、契約時に不安や疑問点を説明と共に解消できるようにしている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族へホームの職員以外に相談や苦情等の対応が取れるように案内をお渡ししている。また、日頃の面会時に加え、2ヵ月に1度の運営推進会議や家族懇談会もその機会としている。 | 管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や年3回開催する家族懇談会、運営推進会議などで意見や要望を聴くように努めている。 管理者は家族等からの要望で行事のお知らせや緊急時の連絡はメールで家族等に送信している。 家族等から「洗濯物がきちんとたたんでいない」や「生乾きの洗濯物が居室にある」などの意見を受け、管理者は洗濯物の衣類整理やゴミ箱清掃、布団カバー付けなどのチェック表を作成し、定期的にチェックができるように改善をしている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 改善活動計画書で、意見、提案をできる機会を作れている。 | 管理者は月1回の職員会議で職員の意見等を聞く機会を設けるとともに、休憩時にはコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 管理者は職員から意見等を得るため、A6サイズ程の用紙の「プチ改善活動計画書」に気軽に書いてもらう仕組みをつくとともに、職員から「排泄チェックはその都度手書きで書いているので、簡単に書き込めるように改善して欲しい」との提案を受け、排泄チェック表のフォーマットをつくり、チェックするだけの記入方法に改善をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 会社で職員満足度調査を行い、非常勤の有給や退職金制度、交通費の見直し、非常勤の常勤化など改善している。各自、年間計画目標を持って働けるようにしている。 | | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人の入社式研修、他事業所見学(6日間)、基礎課程研修(4日間)、OJT研修(約一か月)や職員全体対象の現任者研修、3年目研修、身体介護技術研修、介護福祉士応援講座、リーダー研修、計画作成担当者研修、事業所内研修などがある。全国GH団体連合会からなどの社外講習の情報も案内している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 法人内で毎月リーダー会議と2月に1度、取手市地域密着型サービス連絡会で交流をはかっている。他法人や連絡会では、合同研修を行なうなど、互いにサービスの質を向上させる取組みを行なっている。また、災害時の他法人ネットワークも確立されている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居までにお茶を飲みに来ていただいたり、運営推進会議に来ていただいたり、2時面接を行い、本人、家族とゆっくり話をする機会を作っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居までにお茶を飲みに来ていただいたり、運営推進会議に来ていただいたり、2時面接を行い、本人、家族とゆっくり話をする機会を作っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 直前で利用されていたサービス担当者のからの情報も含め、入居前に状態像を詳しく聞き取り、また、ご家族様からも情報をお聞きし、必要な支援を見極める材料としている。 | | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご利用者様が、有する能力を発揮できる環境や機会を大切に互いに支え合う関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 懇談会や外出時など支援者のひとりとして協力していただける関係を築けている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 美容院、カラオケなど、本人希望で馴染みのところで関係を継続できている。何気なく利用者が口にした名前をご家族に連絡し、ご家族経由で昔なじみの方が訪問されたこともある。また、継続し手紙のやりとりを行っている方もいる。 | 職員は家族等から話を聴いたり、利用者との日々の会話の中から、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 職員は利用者と一緒に馴染みの店に買い物に行ったり、入居前に利用していた通所介護事業所にカラオケに行くほか、利用者が馴染みの美容室やヨガ教室などに行きたい場合には、家族等の協力を得ながら馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常生活において、個々の有する能力を把握し、職員は、あえて手を出さず、利用者様同士が、互いに支え合う、助け合える環境を作っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居時に「何かあったらいつでも連絡してください」と伝えている。退居後も運営推進会議に参加して下さったご家族もいる。ご自宅へ戻られた方については、他のサービスの利用方法を伝えるなど、安心してご自宅で生活の応援を出来るよう対応している。 | | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 日頃の生活から思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めるとともに、ご家族からの思いや意向も配慮し、ケアプランへ反映している。 | 職員は入居時にアセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、利用者との日々の会話から希望や意向を把握しているほか、家族等から話を聴いて把握に努めている。 職員は利用者が思いや意向を出し易いよう、興味のある話を段階的に話し、せかさず利用者のペースに合わせた声かけで支援をしている。 意思疎通が困難な利用者の場合には表情や仕草から判断するほか、家族等から話を聴いて管理者と職員で相談しながら把握をしている。 把握した内容は「個人ファイル」に記載し、全職員で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ケアプランの中に組み込まれている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ケアプランの中に組み込まれていると同時に、常に変化に気をつけ気がついたことは記録し情報の共有に勤めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月スタッフ会議、4ヶ月に1度の家族懇談会で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。変化があったらその都度、介護計画書（随時版）を活用し、介護計画を変更している。 | 介護計画は月1回カンファレンスを実施し、利用者や家族等の意見や要望、医師や職員の意見等を取り入れて作成するとともに、毎月モニタリングを行って、4ヶ月毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。 | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランの中に組み込まれていると同時に、常に変化に気をつけ気がついたことは記録し情報の共有に努め、必要に応じミーティングし介護計画の見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 必要に応じて、受診付き添い、外出付き添い、外食や催し物の参加などしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 特別養護老人ホームへ毎週カラオケへ参加、隔週のシルバー体操、さくら荘や、小貝川いきいき倶楽部を利用したり、デパートや公民館の催しに参加し楽しめるよう支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 医療機関は本人、ご家族の希望を大切にし、かかりつけ医の受診を継続している。薬の相談も主治医と密にできる関係を作れている。平成26年7月においては、往診医と密に連携し、看取り支援を行えている。 | 契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医の受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、受診時に利用者の状態などを家族等に伝えている。協力医療機関以外に近隣の医師を主治医としており、月1回主治医の訪問診療や週1回訪問看護ステーションの看護師による健康管理などを支援している。受診結果は家族等にその日のうちにメールや電話で報告するとともに、「個人ファイル」に記載し、全職員で共有をしている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月1回の往診、毎週1回の訪問看護で相談、状態確認、体調変化にいち早く気付くアドバイスを受けてたり、看護師の方から勉強会を受けている。必要な場合は、その都度、電話で相談している。平成26年7月においては、医療と密に連携し、看取り支援を行えている。 | | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時に立会い、情報交換している。面会し、状況確認し医療職に退院のめどを確認している。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時の契約のほか、重度化した場合、医師とご家族、訪問看護と話し合いを設けている。医療と連携をとりながらスタッフ全員で支援にあたるよう努めている。訪問看護師の方より、研修も実施して頂いている。 | 契約時に利用者や家族等に重要事項説明書に明記している「急性期・重度化・終末期ケア対応指針」を説明し、書面で同意を得ている。 今年度は利用者の主治医や訪問看護ステーションの看護師、家族等、管理者、職員で連携を図りながら看取り介護を支援している。 職員は重度化や終末期などの研修を定期的に外部研修などを通して受講しており、利用者が看取り介護に入った段階で、訪問看護ステーションの看護師による詳細な看取り介護の指導を受けながら、研修を実施している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年1回は基礎救命講習を行っている。急変時の対応やご高齢の方がかかりやすい病気など、毎年、看護師より、訪問看護の時間を活用し、講義して頂いている。また、急変時の対応マニュアルも作成している。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回は、避難訓練を行っており、内1回は夜間想定した避難訓練を行っている。訓練時には、消防署の方から、災害時の備えや避難方法をお話して頂いている。通報訓練は新入職員のOJTで行っている。災害用伝言ダイヤルの使用方法も貼りだしている。 | 避難訓練は消防署立会いのもと、近隣住民や家族等の参加を得ながら年2回実施し、内1回は夜間想定した避難訓練を実施している。 管理者は訓練に多くの参加者を得る工夫として、運営推進会議の後に避難訓練を実施し、訓練の状況などを通して近隣住民や家族等の協力体制に結び付けている。 訓練では通報や避難誘導にかかった時間を計るとともに、訓練後に反省点や今後の課題などを話し合って記録に残している。 非常時に備えて水や米、レトルト食品、缶詰、カセットコンロなどの一覧表を作成して備蓄しているほか、利用者と職員全員分のヘルメットや非常用持ち出しバッグを玄関の脇に備えている。 | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | たとえ間違っているとしても入居者を否定・非難する発言はしない。申し送りは入居者の前ではしない。プライバシー保護に関して、新人研修に加え、スタッフ会議でも話し合っている。 | 管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者の言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援をしている。 1日のスケジュールを決めず、利用者一人ひとりの自己決定を重視した生活ができるよう時間にとらわれない支援をしている。 トイレ誘導時には利用者に小声で声をかけ、トイレのドアは閉めるなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室にある施錠ができるロッカーに保管し、情報漏洩に留意している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常全般で入居者が判断、選択し、また、思いをまず聞いてから支援にあたるようにしている。たとえば、毎日のメニューも毎食希望を確認して決めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 決まったスケジュールはないが、規則正しい生活ができるように努めている。毎週、カラオケへ行ったり、花壇の手入れをしたり、畑仕事をしたり、好きな事をして過ごせる環境を作れている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | なじみや希望の理美容院に行けるようにしている。髭剃りを毎日できるように声かけ、できないところは仕上げを支援している。 | | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 毎食入居者それぞれが食べたいものを決め調理・片づけを一緒に行っている。希望に応じ、出前や外食、ピクニックなどを取り入れている。 | 献立は毎日の午前中に利用者と職員で一緒に考えながら決め、一緒に買い物に行って調理をしている。 利用者はじゃがいもや人参などの皮むきなどの下処理や調理、テーブル拭き、配膳、後片付けなど、できる範囲で役割を担っている。 利用者と職員は同じテーブルを囲み、楽しく会話しながら食事をしている。 利用者の咀嚼能力に応じてトロミを付けたり、刻み食などにして、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供している。 外食や弁当の購入、誕生日にはホールケーキで祝うなど、食事が楽しみなものとなるように支援をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本社管理栄養士の指導による「工夫食」の調理実習を含めた研修がある。体調の変化に気付けるようにし、下痢しているから脱水に気をつけ水分を気をつける等、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | / | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声かけや必要に応じ介助で歯磨きやうがい、義歯洗浄行っている。 | / | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄チェックシートを使い、排泄のパターンを把握し、排泄の促し等で、失敗やおむつの使用を減らせるようにしている。 | 職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らってトイレへ誘導をしているほか、パッドやリハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。 失敗した場合は周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないように配慮をしている。 | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分はもちろん、食事で繊維質の物を多く摂れるように献立を考慮ことやヨーグルトを日に一回は摂るようにしている。また、起床時の水分摂取も大事にしていることや日中の外出や家事全般での活動を多く作っている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 入浴の時間や曜日は決まっておらず、好きな方は、毎日入浴されている。声かけが必要な方には、声をかけ支援している。季節に応じたゆず湯や菖蒲湯なども行っている。 | 風呂は毎日沸かし、週3回から4回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、毎回脱衣場で血圧や体重測定をしているので「血圧測定をしましょう」や、風呂場の床敷がもこもこしているのも「もこもこ見に行きましょうね」など、利用者の興味のある話しをしながらさりげなく風呂場へ誘導するなど、工夫して入浴ができるように支援をしている。 脱衣場には長椅子を配置して着脱時の安全を確保するほか、エアコンで温度調節をして利用者が快適に入浴ができるように配慮をしているほか、毎回入浴剤を利用して肌の潤いや乾燥にも配慮した入浴を支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間においては、出来るだけ薬に頼らず、日中の活動量を増やす事で安眠しやすいよういる。また、日中はスケジュールがあるわけではないので、好きな時に休息できている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の目的や副作用、用法、量、についてはスタッフ会議で確認し全員が把握できるようにしている。服薬ミスが無いように服薬チェックシートを用いる事や服薬が必要な時には、薬袋を首からさげる（腰に巻く）などで対応し、忘れないようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 料理、外出、草取り、花の水やり、縫い物、歌、野菜作り、手芸など、やりがいや楽しみを日常生活に取り入れられている。また、日常的にお酒やタバコを嗜む方もいる。 | | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日常的な散歩や洋服屋でのショッピング、地域の催し物や季節の行事などに参加できている。また、ご家族と毎週、ヨガ教室に通っている方もいる。 | <p>天気の良い日には利用者の希望を聴きながら、各ユニットごとに利用者と職員で事業所周辺を散歩したり、近隣の公園に咲く花を観に行くほか、毎日食材の買い出しに近隣のスーパーに行くなど、利用者が気軽に外気にふれられるように支援をしている。</p> <p>年2回は全利用者で季節の果物狩りの外出を年間行事に組み込むとともに、ドライブを兼ねて近隣の公園で弁当を食べるなど、四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるように支援をしている。</p> <p>職員は外出先が初めての場合には、事前にトイレや駐車場、休憩場所などを下見している。</p> | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族了承の下、ご本人の希望から、どこにしまったか分からなくなっても少額だが、お金を所持できるようにしている。金銭管理を行える方は、日常的な買い物を不自由なく出来るほど所持しているか方もいる。お金の支払いが出来る方は、毎日の買い物での支払いを行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 必要に応じて、いつでもご家族と連絡がとれるようにしてる。手紙については、すぐ本人に渡し、必要に応じて返事を出すことができるように対応している。継続し手紙のやりとりを行っている方もいる。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングは、湿温計を常に確認、調節している。また、動物のカレンダーや花、絵などを飾り、快適に過ごせるようにしている。中庭の花壇には季節の花に加え、日よけも兼ねてグリーンカーテンなども行っている。 | <p>事業所の中庭を挟んで、各ユニットの玄関が対面にあり、各玄関の棚に手指消毒薬を置いて衛生管理をしているほか、利用者が靴を履いたり脱いだりする時の転倒防止に長椅子を配置している。</p> <p>居間兼食堂の窓から中庭に植えてある木や草花から季節を窺えるほか、事業所に人が来訪した際には一目でわかる環境となっている。</p> <p>利用者が折り紙で制作した季節の花を玄関や居間兼食堂に飾るほか、玄関にススキを花瓶に活けるなど、季節感を取り入れている。</p> <p>各ユニットをつないでいる幅の広い廊下に手摺を設置し、雨の日には歩行訓練の場所として活用しながら下肢筋力の維持につなげている。</p> | |

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|------|------|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 建物の作りとして、利用者同士が内緒話していたり、職員室の畳でもゆっくり過ごさせている。 | / | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 環境の変化が少なく済む様に今まで使用していたベッドや家具、仏壇など身近にあった物を持ち込んでもらえるようにしている。 | 居室にはエアコンと押し入れが備え付けられている。 部屋は和室と洋室があるが、和室でもベッドを使用しても構わず、利用者の今までの環境を変えないように配慮している。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れたベッドや布団、整理筆筒、鏡台、ラジオ、テレビ、座椅子、家族の写真など、思い思いの物品を持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。 | / | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の場所が分からない方には入口にのれんや人形などをつけている。玄関での靴の脱着や立ち上がりなどでは、行い易い様に柱や腰掛けられる場所がある。階段は、滑り止めを張り、両手で手すりを使用し安全に昇降できるようにしている。ホーム内の床においては、転倒時のリスク軽減するよう、二重構造になっている。 | / | | |

| V アウトカム項目 | | |
|-----------|--|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない |

| | | |
|----|--|--|
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | 1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | 1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない |

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなごみ藤代

作成日 平成27年2月23日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--|---|---|------------|
| 1 | 1 | 会社の理念はあるものの、なごみ藤代独自の理念を作成していない。 | 職員が理念を自覚し、理念を踏まえ仕事へ従事できる。 | 既に職員全員で、藤代独自の理念を考え、全員に伝えている。把握し続けていられるように毎月の会議で、理念の確認を行う。 | 1年 |
| 2 | 4 | 年6回の運営推進会議のうち3回は、土曜日に設定しているが、その土曜日には行政で担当の方に出席頂けていない。また、会議の議題について、出席者から多くの意見や助言を得るまでには、至っていない。 | 土曜日でも参加して頂けるように対応する。また、出席者から多くの意見や助言を得るように対応する。 | 会議の議題を案内を配る際に設け、その意義をご理解頂くとともに毎回の出席に加え、多くの意見や助言を頂けるようにする。 | 1年 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。